

## 別海町立西春別小学校 学校だより



# からまつ No.10

平成30年 9月14日発行 発行責任者 校長 金森 卓哉

### 「ようこそ 収穫フェスタへ！！」

校長 金森 卓哉

先週は、胆振東部地震で41名の方々が犠牲となり、今もたくさんの方々が避難生活を送られています。別海町でも地震による停電や給食センターが稼働できない状況、児童の安全を確保できないという理由で2日間の臨時休業をさせていただきました。学校では地震に備えて毎年避難訓練をしており、ちょうど8月31日（金）にしたばかりでした。今後、今回の地震の大きさや被害などについて学びながら、避難訓練でも子どもたちにいつ起きるかわからない地震（激震）の恐ろしさや心構えの大切さを指導していかなくてはなりません。今回の地震による停電で酪農家の方々は、搾乳において大変な苦勞をされているとお聞きしております。一日でも早く、地震前の状態に戻られますようにと願っております。

9月に入り、「イモ掘り」など野菜の収穫をし、それを使っての「収穫フェスタ」が行われました。この畑は、PTAの方に起こしていただき堆肥を入れてもらい、野菜にとって栄養満点の畑です。5月25日に全校児童で種芋を植えました。そのほかに人参やかぶ、大豆なども植えました。それから約3カ月が経ちました。収穫です。高学年が茎のそばを掘り起こすと、畑のあちこちから、「あった!」、「あった!」、「あった。あったよ!」と喜びの声が聞こえてきます。中学年と低学年で更に掘って芋をとり運びます。低学年の子どもたちの芋を運ぶ足取りも速くなります。コンテナにはどんどん芋が積まれていきます。全部でおおよそ100kgの収穫がありました。子どもたちの喜びの声や運ぶ様子を見ていると、こういう収穫の喜びから「秋祭り」というものが始まったのかなと思ったりもします。

そして、12日（水曜日）の「収穫フェスタ」。1時間目から子どもたちと先生方で準備が始まります。担当の先生から仕事の分担が発表され、それに合わせて各学年が動き出します。まずは、食事会場や学習の発表会場づくり。そして、いよいよ班に分かれての調理の学習です。そんな中「〇〇君、包丁の使い方、上手だね。」という声に、「おばあちゃんに教えてもらったんだ。」という返答が聞こえてきたり、「先生、玉ねぎいやだ〜!」と涙が出て大変な様子を担任に話してくる子。そんな会話を子どもたちと先生方が交わしながら、おいしくおいがしてきます。保護者の方々がみえられる時刻。玄関では子どもたちの歓迎の言葉、「ようこそ、収穫フェスタへ!!」という声が響きます。この後、収穫までの学習の取り組みを高学年が発表し、保護者との交流学習を中学年が進行しました。子どもたちと先生方で調理したカレーライス、人参クッキー、胡瓜の浅漬、野菜スティックなどを保護者の方々と会食し、生活科、総合的な学習の時間の「野菜を育てる学習」のまとめとしました。

つぎは、8月の初めの北海道新聞の「陽だまり」に掲載された記事です。投稿した方は、あるスポーツ雑誌を読んで目に止まった記事（甲子園大会の決勝など審判された方のお話）からの投稿でした。

「炎天下での審判はきつい。我々以上に球児たちはきついはず。連打されて何度も本塁後方にカバーに走り肩で息をしている投手がいたら、ボールが汚れていなくてもタイムをかけてボールを交換して間をとってやります。」「最終回に代打で出てくる選手は緊張で足がガクガク震えている。そんな時は深呼吸して素振りをしなさいと目で言い、少し時間をかけてホームベースをブラシで掃除します。」投稿者は、長年バレーボールの審判員をされてきた方で、このような心遣いをしてきたらどうかと改めて振り返ったそうです。私たちが毎年楽しみにして観ている高校野球は、非常に多くの方々に支えられて運営されているのですが、まだまだ見えていない支えがたくさんあることを知らされた想いがいたしました。私たち大人は、子どもたちをしっかりと観つめ、自分の力を出しきれるような支えをしてあげることが大切なのではないでしょうか。

グラウンドの道道沿いに並ぶミズナラにドングリが大きくなりだしております。成長するドングリはまだ緑色で、「輝く緑」という感じにも見えました。

